

令和 8 年度都城市総合教育会議 議事録

日 時：令和 8 年 7 月 27 日(月)午後 3 時 30 分～午後 5 時

場 所：都城市役所本館 4 階 秘書広報課前会議室

出席者：都城市長 池田 宜永、教育長 児玉 晴男

教育委員 赤松 國吉、中原 正暢

岡村 夫佐、高木 かおる

発言者	内容
総合政策部長	ただいまから令和 8 年度都城市総合教育会議を開催いたします。 本日の会議の進行を務めます総合政策部長の西川です。よろしくお願いいたします。 初めに池田市長から御挨拶申し上げます。
池田市長	皆さん、こんにちは。本日は令和 8 年度の総合教育会議ということで、大変暑い中お集まりいただきありがとうございます。また、教育委員の皆様には日頃から本市の教育行政に多大なる御尽力をいただいております、感謝申し上げます。 本日は 2 つのテーマで御議論いただきます。市長部局から提案している地域コミュニティのテーマは、現在市全体としても議論を進めております。昨年度は加入促進に関する検討会を行っていましたが、議論を重ねていく中、加入促進だけの問題ではないということが明らかになり、今年度は在り方検討会を設置し、一歩踏み込んだ議論を進めているところです。 教育委員会から議題として提案されているエージェンシーにつきましては、私はまだなじみが薄いところがありまして、本日はしっかり学ばせていただければと思っております。現在、本市では人口戦略にも取り組んでおりますが、人口を維持・増加させることは、地域コミュニティを守ること、そして学校を守ることにもつながります。出生数も昨年度は前年より増加しており、将来の地域・学校にとって大きな力になると考えております。こうした取組をしっかりと進めながら、教育行政についても皆様と一緒に取り組んでまいりたいと思っております。 本日はどうぞよろしくお願いいたします。
総合政策部長	ありがとうございました。 続きまして、児玉教育長から御挨拶をお願いいたします。
児玉教育長	皆さん、こんにちは。総合教育会議は、池田市長の招集がなければ開催することができない会議でございます。今回も招集いただきまして誠にありがとうございます。 地域コミュニティは非常に重要なテーマだと認識しています。先日の新聞では、高崎中学校の生徒たちがワークショップに参加し、地域住民と対話を行ったという記事が掲載されておりました。最後には中学生が抱負を発表したようで、市のイベントに参加して交流を深めたいという内容でした。高崎中学校の校長先生は就任当初からこうした取組に積極的に動いてこられた方で、それが少しずつ実を結んでいることをうれしく思っております。 エージェンシーについては、耳慣れない言葉かもしれませんが。私が昨年ヨーロッパに伺った際、このエージェンシーがほぼ主題となって議論が進んでいたことに大変驚きました。それ以来、エージェンシーとは何かという問いを持ち、各学校とともに研究を進めております。エージェンシーとはレールに沿って追随するのではなく、自分なりの価値観や方向性を持って前に進んでいく力だと私は理解しております。 都城市の教育について話し合う場がこのように設けられていることに感謝

	し、皆様へのお礼を申し上げ、挨拶とさせていただきます。 本日はよろしくお願いいたします。
総合政策部長	ありがとうございました。 それでは4の報告事項に入ります。以降の進行につきましては、池田市長に お願いいたします。
池田市長	それではこれより進行を務めさせていただきます。 報告事項（１）「都城市立学校の教員職員に関する業務量管理・健康確保措 置実施計画について」を、 学校教育課から説明をお願いします。
学校教育課長	学校教育課です。どうぞよろしくお願いいたします。 【都城市立学校の教員職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画につい て】 ※資料に沿って説明 説明は以上でございます。
池田市長	ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、御質問等はござい ませんでしょうか。 特段ないようであれば、報告事項については以上とさせていただきます。 続いて意見交換に入りたいと思います。まず、議題（１）「エージェンシー による学びの未来」について、引き続き学校教育課から説明をお願いします。
学校教育課長	引き続き、学校教育課より説明させていただきます。 【エージェンシーによる学びの未来～主体性・デジタル・生成 AI が織りなす 新しい教育～】 ※資料に沿って説明 説明は以上でございます。
池田市長	ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、委員の皆様から御 意見や御質問があればお願いいたします。
意見交換（１）開始 ※以下、主訴のみを記載	
赤松委員	従来型の一斉授業は、小学１年生たちが学校生活の基本的なルールや所作を 身につける上で非常に有効であり、経験豊富な教員による丁寧な指導が子供た ちの土台形成に大きくつながる。 一方、社会科の授業において、戦後日本の写真資料を提示し、子供たちが自 ら気づき、「ここはどこだろう」、「なぜ今の社会に変わったのか」と問いを 深めていくような授業も効果的で、一斉授業と子供の主体的な探究学習をそれ ぞれの場面で使い分けることが重要。
中原委員	これからの教育は、教師が「知識の伝達者」から「児童生徒のエージェンシ ーを支える伴走者・支援者」へと役割をシフトしていく必要がある。 デジタル技術を単なるツールとしてではなく、目的達成のための選択肢の一 つとして使いこなし、学力向上とエージェンシーを両立させるためのインフラ として位置づけることが重要。 児童生徒が自らの人生の舵取りができる力を育むことこそが、本市が目指す べき未来の教育の姿だと考える。
岡村委員	１学期に５つの小学校を訪問し、生成 AI を活用した学び方の広がりに関し た可能性を感じることができた。

	その一方、小中学生が生成 AI の回答に依存してしまい、自分で考えることをしなくなるという懸念も抱いた。生成 AI を主体的な学びや倫理観育成などにつなげるためには、教師が正しく理解して子供たちとともに活用していくことが重要であり、生成 AI パイロット校による授業デザインの共有や教員研修の体系化なども求められると考える。
高木委員	エージェンシーとは、人が自ら考え行動するという当たり前のことを言葉にしたもの。生成 AI は教育に便利さをもたらす一方、子供たちの思考プロセスを代替しかねない諸刃の剣でもある。「すぐに答えを求める」傾向が強まる中、分からない・できない経験や、仲間とともに挑戦し、乗り越えることこそが学びの本質であり、主体性にもつながっていく。GIGA スクール構想が始まって数年が経過したが、デジタルとアナログをうまく組み合わせながら、子供も教員も生成 AI と適切に向き合う力が問われている。
児玉教育長	教育委員の皆さんが、学校訪問などを通じて生成 AI やエージェンシーに対し、たしかな考えを持って見てくださっているのだということを改めて認識できた。ただ単に生成 AI をどんどん活用していこうということではなく、これまでの経験の中から、今の使い方でのいいのか、今の向き合い方でのいいのかと立ち止まって考えることは、本市教育委員会としても、とても大切な姿勢ではないかと思う。
教育部長	教育部長に就任してから「心理的安全性」という言葉をよく耳にする。失敗できる環境こそ、今まさに教職員自身にも求められているのではないか。 この度、モデル校として AI 活用に関する国の補助もいただいたので、その環境の下でモデルとなる授業づくりをしっかりと進めていきたい。
池田市長	自分はエージェンシーの根底には人間力があると考えている。AI は使い次第であるため、正しく活用できる判断力を育てることが重要。 また、「心理的安全性」という概念から、失敗を恐れずチャレンジできる環境づくりが教育においても不可欠である。校長が教員の挑戦を支え、成功体験を積ませることが子供たちのエージェンシー育成にもつながっていくのではないか。
意見交換（１）終了	
池田市長	それでは、次のテーマ（２）「持続的な地域コミュニティの基盤形成に向けて」を、総合政策課から説明いただきたいと思います。
総合政策課長	総合政策課長の種子田です。どうぞよろしくお願いいたします。 【持続的な地域コミュニティの基盤形成に向けて～子どもの成長機会確保と地域のあり方～】 ※資料に沿って説明 説明は以上でございます。
池田市長	ありがとうございました。ただいま事務局から説明いただいたこのテーマにつきまして、教育委員の皆様方から御意見や御質問があればよろしくお願いいたします。
意見交換（２）開始 ※以下、主訴のみを記載	
中原委員	地域組織の縮小が進む中、学校を地域コミュニティの核に位置づけ、防災を軸に取り組むことが有効ではないかと考える。防災フェスタを通じた多世代交流で緩やかなつながりを育むとともに、高齢者や消防団から学ぶ実践的な学習

	により、子どもたちが郷土愛と責任感を持つ地域リーダーへ成長する機会を創出できるのではないかと。防災という命を守る共通課題をもとに、子どもたちを守られる存在から地域を共に守る主体的な担い手へと育てることが、持続可能なコミュニティ形成につながると考える。
赤松委員	現代社会では、核家族化や都市化が急速に進んでおり、以前と比べても地域住民間の交流が希薄化しつつある。しかし、私自身の経験で言うと、近隣の小学生とのセミ捕りなどを通じた交流の中で、世代を超えたつながりが自らの学びや今後の視野の広がりにもつながることを実感している。こうした世代間交流は、世代間ギャップや孤立を解消する効果があるが、子どもの成長にとってもかけがえのない機会であると思っており、今後も継続していきたいと考えている。
高木委員	都城市 PTA 連絡協議会の会員減少や地域コミュニティの担い手不足・固定化に懸念を感じており、次世代への継承に焦りを覚えている。若い世代が参加しやすくなるには、メリットの強調よりもデメリットの軽減の方がより重要で、リスクを分かち合うことが地域の安心安全にもつながる。給食で地元食材を提供するなどの小さな経験が子どもたちの地域愛を育てており、教育委員会と市長部局のさらなる連携強化も重要。学校運営協議会は委員が主体的に関わることが求められており、研修会などもさらに増やしてよいと考える。
岡村委員	少子高齢化による地域コミュニティの縮小が進む中、学校と地域が互いにメリットを感じられる Win-Win の関係構築が重要だと考える。小中学生による伝統芸能の継承や高齢者支援などの活動は地域の人と人をつなぐ力となり、コミュニティの維持・発展に寄与している。今後の連携の鍵は、学校が地域の中心になること、地域が学校の教育力を支えること、子どもを地域の未来を担う存在として育てることであり、この3つが揃うことで学校と地域が互いに支えあい、子どもを中心に据えた持続可能な連携が実現すると考える。
教育長	都城市はコミュニティスクールを導入して 14 年目を迎えており、地域の祭りに参加する子どもが増えている。先日も、安久小学校で「やっさ祭り」が盛大に開催され、多くの子どもたちが活躍していた。志和池小学校では、水流神社での「棒踊り」が復活したが、地域の伝統芸能など、子どもを中心としたコミュニティが少しずつ形成されてきていると感じている。こうした取組がただのイベントにとどまらないようにすることが重要である。
地域振興部長	昨年度の自治公民館加入促進検討会では、若者の提案が実現しにくい現状が明らかになっており、失敗を恐れず挑戦できる環境づくりが求められる。今年度は地域コミュニティの在り方検討会やワークショップを実施しているが、さらに地域の交流が発展するような意見が出てくることを期待している。
市長	コミュニティスクールを通じて学校と地域が近づいていることは非常に良いことであり、地域組織が縮小している背景にある要因を取り除いていくことが重要である。学校は地域にとって極めて重要な核であり、学校と地域が連携することが地域コミュニティの維持につながる。また、学校のチャレンジを受け入れることが次の世代の挑戦しやすい土台となるため、引き続き学校と地域の連携を進めていければと考える。
意見交換（２）終了	
総合政策部長	委員の皆様には大変貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。以上をもちまして、令和 8 年度総合教育会議を終了といたします。お疲れ様でした。